

パパ・ママ子育て知恵袋

第8回は「ほめても伸びない？」

実験です。

一定人数の子供たちに同じテストをします。テストは返さずに、全員に「80点だった」と伝えます。

グループ1の子たちには、「本当に頭がいいんだね」とほめる。

グループ2の子たちには、「努力のかがあったね」とほめる。

グループ3の子たちには、何も言わない。

実験は、ここからが本番。

全員に課題を与えます。どちらか好きなほうに取り組みせます。

ひとつめの課題は難しいもの。正解がでなくてもチャレンジする価値があるなと思える課題です。

ふたつめは、やさしくてサクサク解けるもの。

さて、どちらを選ぶでしょう。

	難しい課題を 選ばなかった子の割合
グループ1 頭いいねとほめられた子たち	65%
グループ2 努力をほめられた子たち	10%
グループ3 何も言われなかった子たち	45%

実験は続きます。

今度は、とても難しい課題をひとつ与えました。家に持って帰ってやる気があるかどうか聞きました。

「やる気にならない」と答えた割合が高かったのが、グループ1。

この課題を全員にやらせて、その成績を自分からみんなに発表させたところ、グループ1の子の40%が、実際の成績より良い得点を発表しました。つまり嘘をついたわけです。 （「空気を読む脳」中野信子 講談社新書）

夏休み子どもサロンで試してみました。計算問題ができた子に「うわあ、今まで努力してきたんだね」「〇〇先生の授業をちゃんと受けてきたんだね」「お家でも頑張ってきたんじゃない？」 漢字の練習に取り組んでいる子に「そうそう、この努力が大切なんだよな～」「コツコツ練習しているあなたが好きだな～」。

さて、どうなったか？ 小鼻を膨らませて、時間をオーバーしても勉強を続けてくれました！ 嬉しい！